

ニュース いちしNEWS

一志総合支所
地域振興課 発行
電話293-3000
FAX293-5544
平成30年3月16日
第37号

わくわく料理体験

1月31日（水）高岡幼稚園、2月1日（木）川合幼稚園で、両園年長園児合わせて64人が五平餅作りに挑戦しました。

この取り組みは、地元で採れた食材のおいしさと食べることの喜びを、料理体験を通して知ってもらおうと、一志町地産地消子どもの元気づくり協議会の主催で、毎年行われています。

園児たちは、年少組だった昨年、年長組のお兄さんお姉さんが料理を楽しむ姿を見て、この日が来るのを一年間心待ちにしてきたようで、笑顔いっぱいに一つ一つ五平餅を作りました。

炊き立てのご飯を潰し棒にくっつけ、味噌をつけて焼き上げると、香ばしい香りが会場いっぱいに広がりました。

待ちに待った試食タイムでは、小さな手で一生懸命作った五平餅の味は格別だったようで、「初めて作ったけどおいしくできた。」と、口いっぱいに頬張っていました。



日本の伝統芸能を学ぼう ～能楽体験鑑賞教室～

1月30日（火）、一志西小学校の5・6年生が能楽の鑑賞と体験をしました。

この鑑賞と体験は、岡三加藤文化振興財団の助成を受け、人間国宝に認定された能楽師、大倉源次郎氏の企画・制作・監修により実現したもので、一志西小学校の体育館を会場に開催されました。

最初に、能楽師による能を初めて鑑賞した子どもたちは、その迫力や張り詰めた雰囲気、しばらく言葉を失っていましたが、能の歴史や舞いや楽器について、実演とジョークを交えながら説明を受けると、手を挙げて盛んに質問をしていました。

また、楽器を演奏する機会もありましたが、思い通りの音を出してくれない笛や鼓の伝統楽器に四苦八苦し、苦笑いを浮かべていました。

体験を終え、どことなく凛とした雰囲気で行く子どもたちの姿は、短い時間とはいえ、日本古来の伝統芸能に触れ、貴重な体験を通して、特別な何かを感じ取ったように見えました。



平成 30 年度 児童館 年間行事のご案内

一志児童館 (一志町高野160番地699) (電話)059-293-0936

川合児童館 (一志町八太1008番地1) (電話)059-293-3711



一志地域の児童館は、0歳から18歳未満までの児童のための福祉施設です。子どもたちに遊び場と遊びを提供し、遊びを通して児童が心身ともに健やかに成長するお手伝いをするとこです。

児童館名 月	一志児童館の取り組み	川合児童館の取り組み
4	鯉のぼり作り	鯉のぼり作り
5	ビーズを使った小物作り	バルーンアート
6	七夕飾り作り	七夕飾りと短冊作り
7	いきいきサロンとの交流会：夏の季節の小物作り	暑中見舞いを書く
8	福寿草との交流会：こけ玉作り	残暑見舞いを書く
9	手芸・卓球・一輪車遊び・避難訓練	避難訓練
10	ハロウィン飾り作り	ハロウィン飾り作り
11	手芸・卓球・一輪車遊び	川合フェスタ
12	クリスマス飾り作り	クリスマス飾り作り
1	折紙で干支の壁掛作り	干支の絵馬・節分の小物作り
2	いきいきサロンとの交流会：ひな人形作り	ひな人形作り
3	手芸・卓球・一輪車遊び	カレンダー作り

※ 上記の取り組み以外にも、卓球、一輪車、バドミントン(川合児童館のみ)などの運動やブロック、ゲーム等の遊びができます。

※ 開館時間 10:00~12:00、13:00~17:00まで。(日・祝日・年末年始は休館です)

※ 詳しくは各児童館へお問い合わせください。



子どもたちの安全を願って ~まごころ会の活動~

「まごころ会」は一志地域のボランティアグループで、小学生の通学時間帯に、交通安全と犯罪被害防止を目的として、一志地域、各地区の特に交通量の多い交差点などの危険箇所で、通学安全パトロール等の活動をされています。

メンバーの皆さんの「おかえり。気を付けて帰ってね。」というやさしい声かけに、子どもたちも「〇〇さん、ただいま。」と、名前を呼んで返していました。

まごころ会の活動は、交通安全だけでなく、地域の人との触れ合いや、挨拶の大切さを学ぶことができる機会も作っているようです。

昨年(2017年)には、警察業務への協力が認められ、津南警察署から感謝状が贈られました。

現在13名のメンバーで活動されています。
「体力が続く限り、がんばって活動を続けます。」
「若い方にも新たに活動に加わってもらえたらいいですね。」と話していただきました。



プロのプレーに感動 ～プロバレーボールリーグ公式戦～

12月10日（日）、一志体育館でVチャレンジリーグⅡの公式戦2試合が行われ、地元三重県を本拠地とするチーム、「ヴィアティン三重」も登場しました。

このチームには、津市出身の選手が5名所属し、その内1名が一志町の出身です。

普段は地元のスポーツチームの練習やスポーツ大会での利用がほとんどの一志体育館ですが、この日はプロで活躍する地元出身選手のプレーを一目見ようと、600人を超える観客が集まり、とても賑やかな会場となりました。

一志体育館はプロが試合をする施設としては小さい会場ですが、当日はコート付近まで客席が作られ、迫力あるプレーを間近で見ることができました。

来場された皆さんは、球の速さや選手の身のこなしに驚き、目の前で繰り広げられる熱戦に、盛んに声援を送っていました。

試合後は、選手とのふれあいコーナー等もあり、お気に入りの選手と写真を撮ったりサインをもらったりしていました。



←中央手前が
一志出身の田中選手

かわいっこクラブの活動

12月14日（木）、川合文化会館でかわいっこクラブの子どもたちが、フランス製の積み木「カブラ」を使った遊び体験をしました。

子どもたちは、出張体験教室として三重こどもの城からお招きした講師の指導のもと、八角タワーの高さ競争や、積み上げたカブラが崩れる様子を楽しむナイアガラ等の課題にチャレンジしました。

いくつかのグループに分かれた子どもたちは、より高くより美しくと、それぞれのグループ内で力を合わせてカブラを積み上げていきました。

中には、完成目前で崩れてしまい、また1からやり直しというハプニングもありましたが、なんとか全てのグループが課題をクリアすることができました。

友だちと楽しみながら協力することを学ぶ貴重な体験となりました。



お年寄りと乳幼児がふれあい遊び

川合文化会館では毎月2回、ミニデイサービス事業「あいあいサロン」を行っています。その内年間2回程度川合保育園子育て支援センターと合同で乳幼児・保護者とのふれあい事業を実施しています。

1月18日（木）のふれあい事業では、お年寄りと乳幼児と保護者が一緒になって影絵を観たり、お遊戯をしたり、駒回しや羽子板等のお正月遊びをして楽しみました。

体をいっぱい使って感情を表現する乳幼児たちとの触れ合いに、お年寄りたちから自然に笑い声が生まれ、その様子を見た保護者の顔もほころびました。

参加されたお年寄りは、「子どもたちと遊んでいると、私たちも若返ったような気持ちになります。」と、早くも次回を楽しみにされているようでした。



シリーズ 地域の名所旧跡 . . . その⑧

軽便鉄道跡（石橋・大仰地区）



軽便鉄道跡・石橋地区



誕生寺駅跡



当時の蒸気機関車

1908年（明治41年）大日本軌道会社が設立され、津（岩田橋）～久居間に軽便鉄道が開通しました。その後、この会社を譲り受けて1920年（大正9年）中勢鉄道株式会社が設立され、翌1921年（大正10年）には久居～大仰間が、1925年（大正14年）7月には大仰～二本木間が開通し、更に11月には終点の伊勢川口駅まで全線開通しました。総区間20.64 kmを1時間38分かけて走りました。毎時1本運行され、駅の数には22駅、そのうち現在の一志地域に設置されたのは、其倉・石橋・片山・大仰・誕生寺の5駅でした。

軽便鉄道は国鉄（現JR）に比べて料金が安く、スピードも自転車と走るのと同じ位（最高でも時速45 km程度）という1両の親しみやすい乗り物で、開業以来、乗客や貨物輸送も好調で、この地域にとっては大切な交通機関でした。その後、名松線の開通等により次第に経営難となり、1943年（昭和18年）廃止となりましたが、今でも駅跡の一部や橋跡などが残っており、石橋駅跡近くには、当時を知る樹齢約500年と言われる榎木が今も健在です。軽便鉄道の線路跡は舗装され、かつての雰囲気を感じることはできませんが、一志・白山地域と久居地域などを結ぶ重要な道として利用されています。

軽便鉄道に関する面白い話が今も語り継がれており、大正末期、珍しく2両編成に満員の乗客を乗せて進んでいたところ、津地域の青谷の坂にさしかかるとゴトンと止まってしまいました。運転手は「お客さん、ちょっと降りて押してんか」と一言、すると客も心得たもので「よし、きた」と飛び降りて、左右に並んで押して登り次の駅に着いたという話や、白山地域の亀ヶ広付近で子ども達が自転車で追い越すと、運転手に怒られた話などが残っています。

また、一志郡多気村（現美杉町）に生まれた女性の生涯を描いた宮尾登美子著「伽羅の香」には、主人公の葵が柳山女学校へ通う時に乗る軽便鉄道の様子が描かれています。（引用主要文献「一志町史」）

シルバーエミカはお持ちですか？

津市コミュニティバスでは、シルバーエミカ取得促進期間として、平成30年3月31日まで、住所・氏名・生年月日の分かる公的証明書においても、シルバーエミカをご提示いただく場合と同様、無料とさせていただきます。

シルバーエミカを取得いただく際には、マイナンバーカードが必要となり、発行までに相当の日数がかかりますので、シルバーエミカを取得されていない高齢者（65才以上の方）は、お早めにご準備いただきますようお願いいたします。



お問い合わせ

- 津市高齢者外出支援事業について
- マイナンバーカードについて
- コミュニティバスについて

市民福祉課
地域振興課

電話 293-3002
電話 293-3000



あたりまえ 誰が決めたの その基準

人権標語より